

特定不妊治療費助成事業の実施医療機関
 (採卵・胚移植を行う医療機関)における情報提供様式①

医療機関名：桜十字渋谷バースクリニック

配置人員 (※1)	産婦人科専門医	(1) 名	
	うち、生殖医療専門医	(1) 名	
	泌尿器科専門医	(0) 名	
	うち、生殖医療専門医	(0) 名	
	看護師	(2) 名	
	胚培養士/エンブリオロジスト	(4) 名	
	コーディネーター	(0) 名	
	カウンセラー	(0) 名	
治療内容 (※2)	治療の種類	年間実施件数 (2020年)	費用
	人工授精	(240) 件	(22,000) 円
	体外受精	(13) 件	(209,000～) 円
	顕微授精	(43) 件	(154,000～) 円
	体外受精+顕微授精	(90) 件	(242,000～) 円
	新鮮胚移植	(3) 件	(66,000) 円
	凍結融解胚移植	(179) 件	(143,000) 円
	精巣内精子回収術	(0) 件	() 円
※上記による記載が困難な場合は、第10号様式の「治療指針について」にご記入ください。			
実施事項	自医療機関の不妊治療の結果による妊娠に関して、公益社団法人日本産科婦人科学会における個別調査票（治療から妊娠まで及び妊娠から出産後まで）への登録を行っている。		(はい/いいえ)
	自医療機関で分娩を取り扱わない場合には、妊娠した患者を紹介し、妊娠から出産に至る全ての経過について報告を受ける等、分娩を取り扱う他の医療機関と適切な連携をとっている。（自医療機関で分娩を取り扱っている場合は回答不要）		(はい/いいえ)
	医療安全管理体制が確保されている		
	①	医療に係る安全管理のための指針を整備し、医療機関内に掲げている	(はい/いいえ)
	②	医療に係る安全管理のための委員会を設置し、安全管理の現状を把握している	(はい/いいえ)
	③	医療に係る安全管理のための職員研修を定期的に行っている	(はい/いいえ)
	④	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を講じている	(はい/いいえ)
	⑤	自医療機関において保存されている配偶子、受精卵の保存管理及び記録を安全管理の観点から適切に行っている	(はい/いいえ)
⑥	体外での配偶子・受精卵の操作に当たっては、安全確保の観点から必ずダブルチェックを行う体制を構築しており、ダブルチェックは、実施責任者の監督下に、医師・看護師・胚培養士/エンブリオロジストのいずれかの職種の職員2名以上で行っている。	(はい/いいえ)	

倫理委員会を設置している ※委員構成等については、公益社団法人日本産科婦人科学会の会告「生殖補助医療実施医療機関の登録と報告に関する見解」に準ずる	(はい) (いいえ)
公益財団法人日本医療機能評価機構の実施する医療事故情報収集等事業に登録・参加している	(はい) (いいえ)
不妊治療にかかる記録については、保存期間を20年以上としている	(はい) (いいえ)
里親・特別養子縁組制度の普及啓発等や関係者との連携を実施している	(はい) (いいえ)

毎年3月1日時点の状況について記載すること。

ただし、「年間実施件数」については、記載可能な直近の1年間のものを記載すること。

※ 令和4年3月提出分については、2020年1月から12月分とする。

(※1)

- 東京都特定不妊治療費助成事業の実施医療機関における設備・人員等の指定基準（採卵・胚移植を行う医療機関）の「職員配置基準」を遵守し、正確に記載すること。
- 人員の算出は、常勤換算で行うこと。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している医師を常勤医師とし、その他は非常勤医師として常勤換算する。（医療法第25条第1項）
- 胚培養士／エンブリオロジストについては、生殖補助医療胚培養士又は臨床エンブリオロジスト等の認定を受けている者又は大学において胚培養に関する専門的な教育を受けた者であって胚を取り扱う業務に従事しているものを記載すること。ただし、産婦人科専門医又は泌尿器科専門医が兼務している場合は、人数に含めない。
- コーディネーターおよびカウンセラーについては、産婦人科専門医・泌尿器科専門医・看護師・胚培養士／エンブリオロジストが兼務する場合には、コーディネーターおよびカウンセラーには含めないこと。

(※2)

- 人工授精は、月経周期開始から人工授精実施、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、卵巣刺激等にかかる費用も含めた総額（標準的な費用）を記載すること。
- 体外受精は、採卵により得られた全ての卵子に対し、体外受精を実施した場合の、卵巣刺激、採卵/採精、前培養/媒精/胚培養までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期に係る総額（標準的な費用）を記載すること。
- 顕微授精は、採卵により得られた全ての卵子に対し、顕微授精を実施した場合の、卵巣刺激、採卵/採精、前培養/媒精/胚培養までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期に係る総額（標準的な費用）を記載すること。
- 体外受精＋顕微授精は、採卵により得られた卵子に対し、体外受精と顕微授精に分けて実施した場合の、卵巣刺激、採卵/採精、前培養/媒精/胚培養までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期に係る総額（標準的な費用）を記載すること。
- 新鮮胚移植は、移植、黄体補充、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期にかかる総額（標準的な費用）を記載すること。
- 凍結融解胚移植は、子宮内膜調整法、凍結胚の融解、移植、黄体補充、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期にかかる総額（標準的な費用）を記載すること。
- 精巣内精子回収術は、SimpleTESEをさす。費用については、手術にかかる標準的な費用を記載すること。

下記記載様式を用いて、可能な範囲で記載して下さい。

医療機関名：桜十字渋谷バースクリニック

治療実績について

※ 施設における、不妊治療による治療成績を記載して下さい。

(記載様式)

当院において、データの揃っている直近の1年間（2020年1月から2020年12月まで）に、治療開始時点において35歳以上40歳未満である女性に対して実施した治療の実績は以下の通りである。

【新鮮胚（卵）を用いた治療成績】

	IVF-ET	Split	ICSI	合計
採卵総回数（回）	6	42	12	60
移植総回数（回）	1	0	1	2
妊娠数（回）	0	0	1	1
生産分娩数（回）	0	0	1	1
移植あたり生産率（%）	0	0	100	50

IVF-ET：採卵により得られた全ての卵子に対し、体外受精を実施

Split：採卵により得られた卵子に対し、体外受精と顕微授精に分けて実施

ICSI：採卵により得られた全ての卵子に対し、顕微授精を実施

【凍結胚を用いた治療成績】

	融解胚子宮内移植
移植総回数（回）	81
妊娠数（回）	40
生産分娩数（回）	29
移植あたり生産率（%）	72.5

来院患者情報

※ 施設を受診した患者数について記載して下さい。

(記載様式)

データの揃っている直近の1年間（2020年1月から2020年12月まで）に体外受精・顕微授精・胚移植を行った患者数（実数）は

25歳未満：（0）名

25歳以上30歳未満：（27）名

30歳以上35歳未満：（115）名

35歳以上40歳未満：（141）名

40歳以上43歳未満：（27）名

43歳以上：（19）名

データの揃っている直近の1年間（2020年1月から2020年12月まで）に精巣内精子採取術を行った患者数（実数）は

20歳未満：（0）名

20歳以上30歳未満：（0）名

30歳以上40歳未満：（0）名

40歳以上50歳未満：（0）名

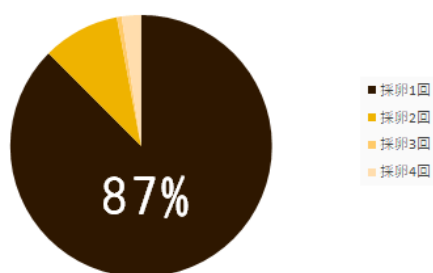
50歳以上：（0）名

治療指針について

※ 施設における統一された治療指針がありましたら記載して下さい。

不妊治療・体外受精に特化した施設として高い技術力と充実した設備を備えた結果、良好な妊娠実績を残してきており、2021年時点での最新の妊娠実績・培養実績を追記いたしますので、参考にさせていただきたいと思います。

当院で妊娠した患者様の治療回数



何回治療すれば妊娠できる？

体外受精の治療は何回行えばいいのかわからないという話をよく聞きます。

この場合、妊娠した患者さまは何回の治療で妊娠できたか見るのが参考になります。

上のグラフは当院で体外受精で妊娠した患者さまのうち、何回採卵が必要だったかを示しています。

87%の方が一度の採卵で妊娠まで辿り着いています。採卵を2度した場合、累計97%の方が妊娠しています。

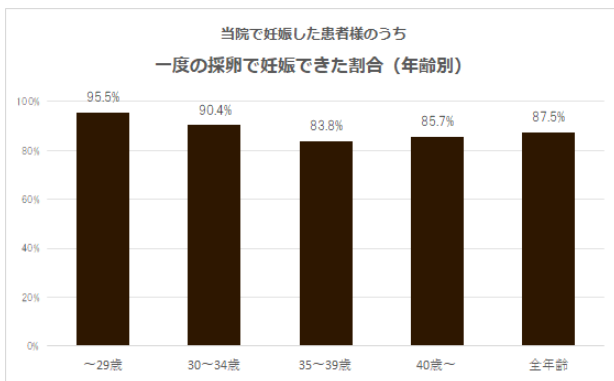
このように当院では殆どの方が採卵1, 2回で妊娠されています。当院では、できるだけ1回の採卵で妊娠・出産いただきたいと考え、1回あたりの採卵数を5~10個程度を目指しています。そのくらい採卵できれば、胚盤胞が2~5個程度、凍結できる可能性が高くなります。

若い患者さまは胚移植あたりの妊娠率が高いため胚盤胞が少なくてもよいですが、年齢が上昇するにつれて胚盤胞の数が多く必要になります。

そのため、いくつか胚盤胞が凍結できれば、その中の最良好胚を移植することで妊娠率を上昇させることが期待できます。また、いくつか胚凍結できれば、次の凍結胚で妊娠が可能です。

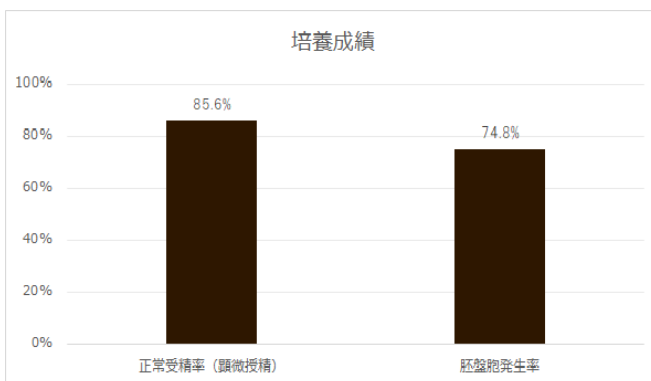
デメリットとして、卵巣過剰刺激症候群（OHSS）など副作用もありますが、患者さまお一人おひとりの状態をみながら卵巣の刺激方法を相談して決定しています。また副作用防止の薬剤を使用することもあります。

(対象期間：2018年5月～2021年2月)



患者年齢別に見た時、妊娠した患者さまのうち29歳以下で95.5%、30～34歳で90.4%、35～39歳で83.8%、40歳以上で85.7%の方が、当院で一度の採卵で妊娠しています。これらの結果から、効率的な治療が出来ていることがわかります。

(対象期間：2018年5月～2021年2月)



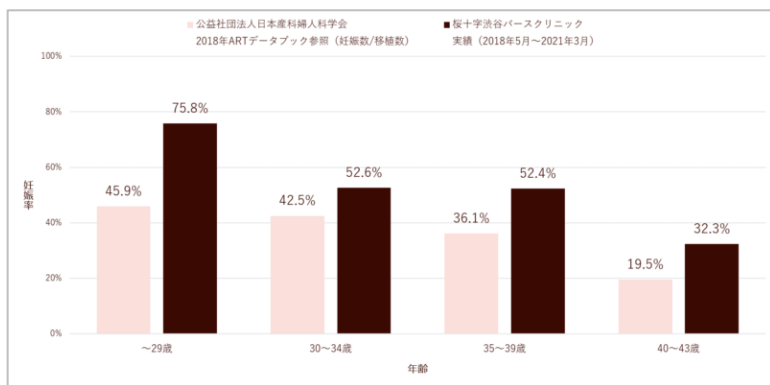
採卵後、培養室内で卵子と精子を受精させ、受精卵（胚）を培養します。

当院では一度の移植あたり妊娠率が高い胚盤胞移植をメインに行っており、**胚盤胞まで培養することが体外受精におけるひとつの大きなステップ**となります。

培養室が正常に機能しているかを見るには、顕微授精での正常受精（2PN）率や、正常受精卵（2PN）の胚盤胞発生率（受精卵が胚盤胞まで育つ割合）が1つの目安とされています。

当院で成熟卵の顕微授精での正常受精（2PN）率85.6%、正常受精卵（2PN）の胚盤胞発生率74.8%と、施設間の差が大きいと言われる培養成績の中でも良好な結果となっています。

(対象期間：2019年1月～2021年2月)



胚盤胞が凍結出来たら胚を子宮へ移植します。

当院での一度の胚移植あたりの患者年齢別妊娠率は、29歳以下で75.8%、30~34歳で52.6%、35~39歳で52.4%、40~43歳で32.3%と高い結果を得ています。

(対象期間：2018年5月~2021年3月)

医療機関のホームページについて

<https://www.sj-shibuya-bc.jp/>

※ 令和4年3月提出分については、2020年1月から12月分までの治療実績・患者数を記載しています。